

吉見町

吉見町合併50周年記念誌

町の肖像

P o r t r a i t i n T O



吉

吉見町合併50周年記念誌

町の肖像

見



町

◆発行日◆
2005年3月
◆発行◆
吉見町役場
◆企画・編集◆
吉見町役場総務課
◆制作◆
株式会社文化工房

50th Anniversary
50
2005

合併から50周年。 新たな町の発展の節目を迎えました。



吉見町長
新井敬三

吉見町は、昭和29年7月に東、西、南、北の旧4ヶ村が合併し吉見村として発足し、その後昭和47年の町制施行を経て、合併50周年という記念すべき年を迎えました。合併当時は、1万6千人であった人口も、2万2千人を超え、自然と生活が調和した町として着実に発展を遂げてまいりました。これも多くの先人の方々のご努力と、お力添えの賜ものと心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

私はこれまで、まちづくりの主役は「町民」であるという認識のもとに、町の将来像である「みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち」の実現に向けて、町民の皆様が安らぎと楽しさを感じ、心からふるさとを誇りに思えるまちづくりに積極的に取り組んでまいりました。今後も町民と行政の協働による「魅力的なまちづくり」の推進に努力してまいります。

この合併50周年記念誌は、吉見町の歩みを紹介するとともに、現在の町の姿を知っていただくために作成いたしました。この記念誌をご活用いただき、吉見町への皆様の一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

Yoshimi Town was first established as Yoshimi Village with the merger of the four villages of East, West, South and North Yoshimi Villages in July 1954. This year marks the memorable 50th anniversary since its merger and later reorganized as a town in 1972. The population has grown to over 22,000 from the 16,000 at the time of merger and has followed a steady development as a town with nature and daily livelihood in harmony. I would like to offer my cordial appreciation and gratitude to the many predecessors before us that have worked for and realized such development. I have actively engaged in efforts for town planning so to provide the people of Yoshimi Town with a sense of reassurance and excitement and for them to truly feel proud of their hometown under the belief that the townspeople are at the center of town planning. I have endeavored in efforts to realize the future of the town as a town rich in greenery and smiles created by the townspeople. I shall continue to rigorously promote attractive town planning through cooperation between the townspeople and the administrative body. This magazine to commemorate the 50th anniversary since the merger has been compiled to introduce the history of Yoshimi Town as well as in an attempt to make known its current status. In closing, I would like to ask for your further understanding of and cooperation to Yoshimi Town through this commemorative magazine.



吉見町議会議長
國嶋勇吉

吉見町は、合併50周年という節目の年を迎えました。昭和28年に施行された町村合併促進法によって、4ヶ村が合併して、昭和29年7月「吉見村」が誕生しました。昭和30年代初期から始まったいちご栽培、後に「特産吉見いちご」として全国有数の産地に成長しました。昭和30年代後半には、大規模ほ場整備をはじめとする農村の近代化となりました。

昭和45年には、大規模工場の誘致や市街化区域の設定など、首都50キロ圏内という立地条件を生かし都市化の第一歩を踏み出しました。

その後、昭和47年11月に町制をしき「吉見町」としてスタートしました。

この間、健全な財政を基調に、町税収入の安定を図る等、自然と文化を育みながら積極的に財源を確保し、計画的かつ効果的な行財政運営を進めてきましたことは、町民の皆様の町政に対するご理解、ご協力と町当局のご努力の賜と心から敬意を表する次第でございます。

今後、厳しい財政運営を余儀なくされますが、私達議会は全員一丸となって町民と行政のパイプ役としての役割を担い、活気ある吉見町にいたす所存でございますので、ご支援、ご協力を節にお願ひしご祝辞といたします。

Yoshimi Town is celebrating the 50th anniversary since its merger this year. Yoshimi Village emerged in July 1954 with the merger of four villages due to the Towns and Villages Merger Promotion Law implemented in 1953. The village started cultivating strawberries between 1955 and 1959, and has evolved as one of the few production areas in the country for strawberries, now known for its signature Yoshimi Strawberries. During 1960 through 1964, its agriculture was modernized such as the introduction of large-scale field adjustment and reorganization. In 1970, it made its first step towards urbanization by taking advantage of its location, within 50km distance from the metropolis, and invited large-scale plants and designated areas for urbanization. Then in November 1972, the village started its history as Yoshimi Town as it reorganized itself as a town. In the meantime, Yoshimi Town has advanced systematic and effective administrative and fiscal management through actively securing financial resources, such as working to stabilize the town tax revenue, together with nurturing the nature and culture while practicing a sound fiscal policy. This could only be made possible by the understanding and cooperation of the townspeople towards Yoshimi Town's policy and the efforts put in by the authorities concerned, thus I would like to extend my heartfelt gratitude to everyone. In closing, I would like to sincerely ask for your support and cooperation as the assembly will work together as one and serve as the pipeline between the townspeople and the administrative body in order to create a lively and vibrant town of Yoshimi in a time when we must face strict fiscal management.

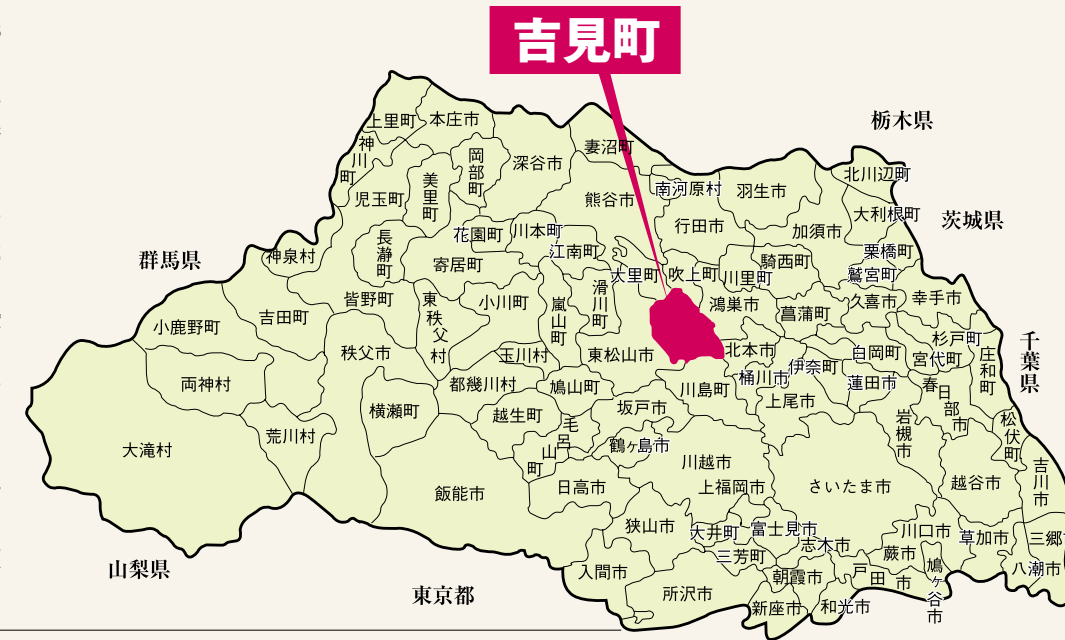
吉見

もくじ
Portrait in TOWN
吉見町合併50周年記念誌
町の肖像



まちのあらまし

昭和29年7月1日に四ヶ村が合併し、吉見村が誕生。昭和47年11月3日に町制を施行し、現在の吉見町となりました。埼玉県ほぼ中央に位置し、都心から50km圏。東武東上線やJR高崎線、関越自動車道などへのアクセスも容易です。東西約7km、南北約8km、総面積38.63km²で、南部は川島町、西部は東松山市、東部は鴻巣市と北本市、北部は吹上町と大里町に接しています。西部の丘陵部を除いては平野部で、かつては、荒川、市野川などの氾濫による水害に悩まされましたが、昭和13年にすべての堤防が完成した後は、肥沃な穀倉地帯となっています。西部の丘陵地帯は県立比企丘陵自然公園に指定されており、国指定史跡の吉見百穴や国指定天然記念物のヒカリゴケなどで有名です。



第1章	このまちのニューフェイスたち	
	町民会館.....	3
	福祉会館.....	4
	道の駅 いちごの里 よしみ.....	5
	埋蔵文化財センター.....	6
第2章	吉見歴史紀行	
	原始・古代.....	8
	中世・近世.....	10
	近代・現代.....	12
第3章	吉見・町物語	
	1954年～63年 [昭和29年～38年].....	14
	1964年～73年 [昭和39年～48年].....	16
	1974年～83年 [昭和49年～58年].....	18
	1984年～93年 [昭和59年～平成5年].....	20
	1994年～2005年 [平成6年～17年].....	22
	吉見町ガイドマップ.....	26
	歴代村・町長.....	28

第一章 *New Faces of Yoshimi Town*

このまちの ニューフェイスたち



Town planning in Yoshimi Town is being advanced with the combined efforts of the townspeople and the administrative body. Recently, a wave of public facilities has been constructed to provide a more convenient and comfortable living for the townspeople. This section will introduce these new facilities.

都心から五十km圏内にあり、豊かな自然と暮らしやすい環境が整った吉見町。町民と行政が一体となってまちづくりが進められるなか、吉見の新しいまちの顔も続々お目見えしています。町民会館、福祉会館、道の駅いちごの里よしみ、埋蔵文化財センター。四力村合併からちょうど半世紀という節目に誕生したこれらの四つの施設は、いずれも私たちの生活をよりいっそう便利で快適なものにしてくれるものです。ここでは、それぞれの施設の魅力についてレポートします。



町民会館外観

にぎわいのエリアに
生まれた芸術文化拠点

「ゆっくり、しっかり、じっくりと…動き出す吉見の文化づくり～伝統文化・生活文化・芸術文化の息づく町・YOSHIMIをめざして～」を基本コンセプトに町民会館が誕生したのは、中央公民館、図書館、町民体育館など町の主要施設が集まる場所の一角。まさに、にぎわいの核と呼べるエリアにあって、同会館は、既存の諸施設と有機的に連携しあって、町の人びとの文化的交流の中心拠点となることが期待されています。

大ホール、小ホールをはじめ諸設備が充実

直線と曲線をダイナミックに組み合わせ、ガラス面を大きくとったユニークな建物は、吉見町の新たなランドマークとも呼べるもの。館内には、約600席の大ホール、約200席の小ホールのほか、素晴らしい展望の広がるスカイホールや会議室、和室などが充実しています。今後、一流のアーティストを招いての芸術・芸能の公演や、著名人による講演会など、各種イベントの会場として使用されるほか、町民の日ごろの芸術文化活動の発表の場として、積極的に活用され、多くの町民に親しまれていくことでしょう。

NEW FACES of OUR TOWN

町民会館 [フレサよしみ]

生きがいや心の豊かさが求められるいま、芸術作品を鑑賞したり、住民自らが芸術文化活動に参加できる場や機会の創出が望まれています。新たに誕生した町民会館は、そんなニーズに応え、新たな吉見文化の創造拠点となるものです。



大ホール



小ホール



屋上テラス

The Yoshimi Town Hall (Furesa Yoshimi) was created as a space to exhibit and appreciate distinguished artworks and for the townspeople to engage in artistic activities themselves. The facility is well equipped including the two halls (large and small) inside a very uniquely designed architecture with a big glass surface on its side. It is to serve as the base for the creation of Yoshimi Town's culture while working in conjunction with the Central Community Center, the library and gymnasium established in the near vicinity.

積極的な福祉活動の
推進を目的に誕生

吉見町では、すべての住民のみなさんが、生まれ育った町で、住み慣れた地域で、家族が見守る家庭でふれあいながら、健やかで安心して暮らすことができる町の実現を目指しています。そのために、障害を持つ人、高齢者の人たち、出産や子育てに取り組む人たちなどが、生きがいと誇りを持ちながら楽しく安心して過ごすことができる環境づくりを推進しています。

2階には
子育て支援室を設置

こうしたまちづくりの一環として建設したのが吉見町福祉会館です。福祉会館は、住民のみなさんの積極的な福祉活動の推進を目的とするもので、福祉サービスを受ける人たちとそれを支える福祉団体、ボランティアグループなどの支援を行なっていきます。

そして、すべての人たちが、互いに支えあい、助け合う場所と機会を提供していきます。

福祉会館の1階には、町の子育ての拠点を担う子育て支援室、2階には、各種福祉団体の会議などに利用できる会議室を備えています。

The Yoshimi Welfare Hall is a facility that serves to meet the needs of all townspeople including the elderly, people with disability, expected mothers and people raising their child(ren) by providing a place for them to support and help one another. The office of the Town Council of Social Welfare, daycare center for people with disabilities and childrearing support room(s) are situated here, thus the Yoshimi Welfare Hall is to become the main base for health and welfare of Yoshimi Town.



福祉会館外観

NEW FACES of OUR TOWN
福祉会館

高齢社会が現実のものになるなど、社会の変化にともなって、より充実した福祉の体制づくりが求められるようになっていきます。福祉会館は、すべての人たちが、支えあい、助けあうためのよりよい場と機会を提供します。



[保健・福祉ゾーン] 手前から保健センター、悠友館、福祉会館



いちごの里物産館

NEW FACES of OUR TOWN

道の駅 いちごの里 よしみ

「道の駅」は、ドライバーや同乗者が安心して利用できる休憩場所として、全国で親しまれています。吉見町の中心部に新たに誕生した道の駅 いちごの里 よしみは、休憩、交流の機能と多彩な特産品が充実した話題のスポットです。



トイレ・休憩所



手打ちうどんコーナー



JA吉見直売所



遊具施設ストロベリーキャッスル

ふれあいとつろぎの
スペースが充実

町民からの公募によって名づけられた、新しい道の駅の名称は、特産品にちなんだ「いちごの里 よしみ」。主要地方道・東松山鴻巣線と大里比企広域農道の交差点に位置し、2万5千㎡の広さの敷地内に、交流・休憩・特産品販売のための施設が充実しています。

ここには、イベントの開かれる円形広場や、子どもたちが遊具で楽しく遊べる公園、広々とした空間でくつろげる芝生広場などが完備。子どもからお年寄りまで思い思いの時間を快適に過ごすことができます。また、休憩施設では、町の観光情報なども入手することができます。

地元自慢の
味覚がどっさり！

また、利用者の人気が高い特産品の販売も、この「いちごの里 よしみ」の自慢です。地元の素材を利用した味噌・ジャム・菓子などの加工品販売、手打ちうどん・ジャムの製造体験室、地粉を使った手打ちうどんなどが食べられるコーナーを設置。さらに、シーズンにはいちごの摘み取りができる温室まで備えています。また、JAの農産物直売所が隣接していますので、米、いちご、野菜など地元産の新鮮な農産物のショッピングも楽しめます。

The michi-no-eki (road station) Ichigo no Sato Yoshimi (Land of Strawberries) is enhanced with facilities and spaces for interaction, resting and sales of specialty products within its 25,000m2 property. It is rich in space where people of all ages from young children to the elderly can play or rest. Furthermore, there are different stores in which visitors may purchase locally made miso (soybean paste), jam, snacks and other food products as well as eat handmade udon noodles.

国指定史跡の吉見百穴に隣接してオープンした吉見町埋蔵文化財センターは、これまで親しまれていた吉見百穴資料展示館のとなりに建設されより一層充実した内容で、町民をはじめとする多くの方に、「美しい緑と歴史の回廊—吉見町」を知ってもらう場を提供するものです。「ふれあいの場」として、子どもからお年寄りまでが、「体験」を通して楽しみながら文化財の大切さを理解できます。また「学びの場」として、地域の歴史、地域の文化財を学習することもできます。

町内各地からの
出土品を展示

館内には、体験学習室、講座室、展示室などをゆったりとしたスペースで配置。展示室には町内各地から出土した土器、石器等を展示紹介しています。

また、文化財に関する情報発信基地としての役割も備え、インターネットなどを活用して、全国に向けて各種の文化財情報を発信。さらに、貴重な埋蔵文化財を適切に保管するための収蔵スペースを確保したほか、原始・古代の文化に親しむ各種体験学習会も実施されます。

The Cultural Deposit Center is a facility that stores and exhibits buried cultural properties of Yoshimi Town rich in its history and culture. The exhibition is conducted in a very simple manner using video images and panels mainly of Yoshimi Hyakuana tumulus which is the cultural property that represents Yoshimi Town and the Matsuyama Castle. In addition, it serves as the base from which information on cultural properties are distributed on the internet and hands-on workshops where participants are exposed to the culture of ancient times are conducted.

NEW FACES of OUR TOWN

埋蔵文化財センター

吉見百穴、松山城跡をはじめ、貴重な文化財の数々を有する吉見町。その恵まれた財産を活かすことで生まれたのが、埋蔵文化財センターです。



埋蔵文化財センター



けいとう
圭頭大刀(かぶと塚古墳出土)



土偶(三ノ耕地遺跡出土)



耳飾り(三ノ耕地遺跡出土)

第2章

吉見

歴

YOSHIMI Historical Trip

史

紀行

吉見丘陵—そこは、緑豊かな歴史の宝庫。古墳時代後期の横穴式群集墓として全国に知られる吉見百穴、弘法大師の伝説をとどめる岩室観音、そして、名だたる戦国武将が攻防戦を繰り広げた松山城跡。これら貴重な文化遺産の数々が、ここ吉見町に集まっています。さまざまなロマンに彩られた歴史の舞台を歩けば、いつしか、いにしえの人たちの営みや思いまでもが伝わってきます。

The Yoshimi Hills where Yoshimi Town is situated has a rich history abundant in greenery. There are many famous and renowned sites such as archaeological site of group tombs, prestigious and historic Buddhist temples, ruins of castles where famous feudal warlords fought and more.

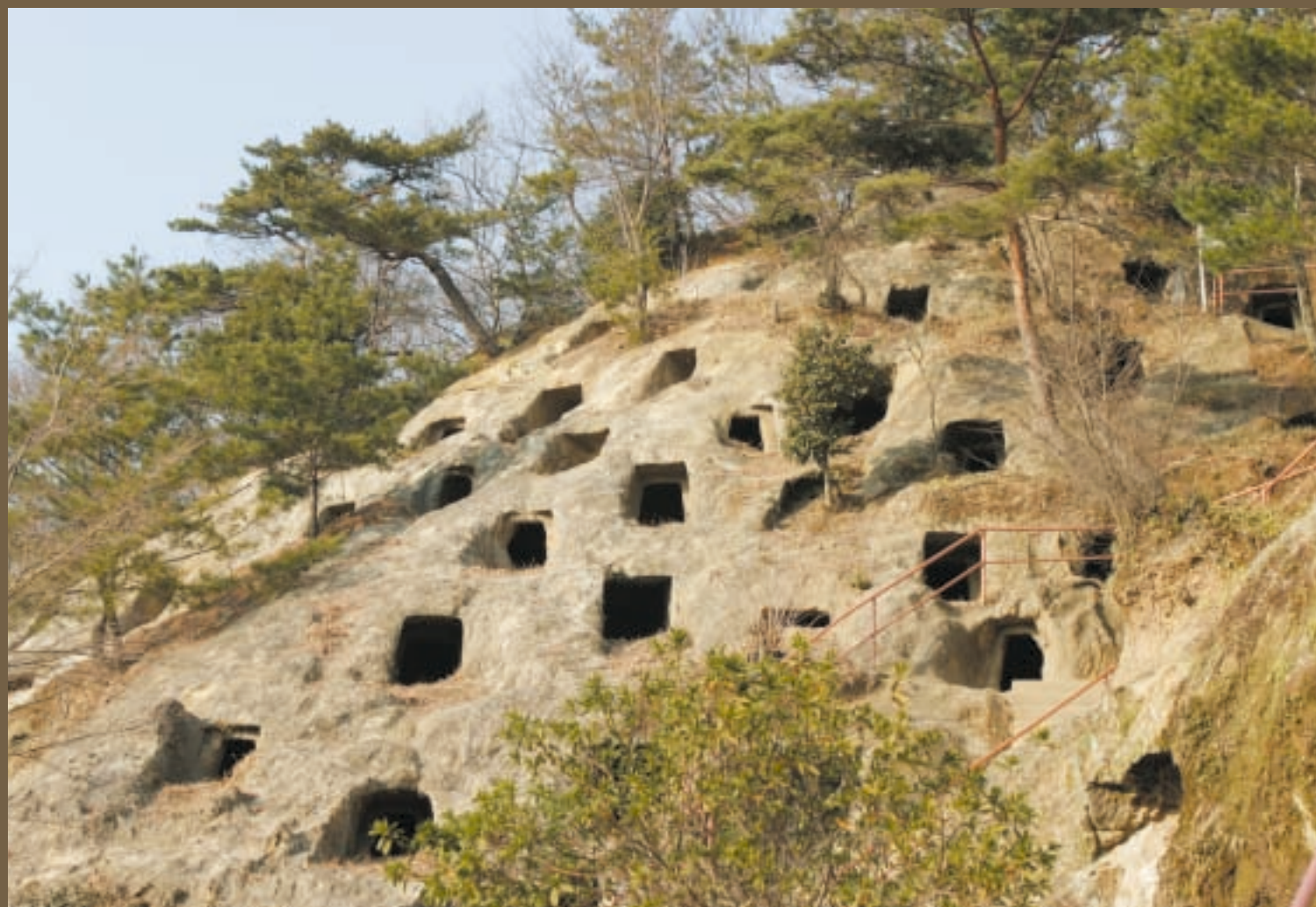
太古の昔から、人びとの豊かな暮らしが営まれた、吉見丘陵。ここには、原始・古代の様子を物語る遺跡が数多く残されています。とりわけ、古墳時代後期の横穴墓群として全国的に有名な国指定史跡・吉見百穴をはじめ、黒岩横穴墓群、茶臼山古墳など、古墳時代の遺跡に高い歴史的価値を見ることが出来ます。また、近年では東山道武蔵路と推定される古代道路跡も発見されています。



和名埴輪窯跡群出土品



西吉見古代道路跡



吉見百穴（横穴墓群）



和名埴輪窯跡群

原始・古代

吉見町の西部、東松山市との境を流れる市野川に臨む小高い丘の斜面に、無数の穴を見せるのが、国指定の史跡「吉見百穴」です。

吉見百穴は、今からおよそ千四百年前の古墳時代末期(7世紀ごろ)につくられた横穴墓群。明治20(1887)年に、当時東京大学大学院生だった坪井正五郎博士によって調査が行われ、237基の横穴が発掘されました。当時、玉類、金属器、土器類など多数の遺物が出土しましたが、人骨はそれほど多く見られませんでした。そのため、当初は先住民族の住居跡であると考えられましたが、その後、調査・研究が進み、吉見百穴は古代の横穴墓であることがわかりました。

百穴のある丘は軟らかい凝灰質砂岩でできているため、太平洋戦争の末期には、ここに複数の巨大な洞穴が掘られ、地下軍需工場も建設されました。

なお、この吉見百穴は、極めて貴重な植物であるヒカリゴケの自生地としても有名で、国の天然記念物に指定されています。

また、吉見丘陵の東部、八丁湖周辺の山の斜面には、やはり古墳時代の末期につくられ、吉見百穴をはるかに上回るとされる規模の「黒岩横穴墓群」もあります。

このほか、吉見町内には、古墳時代の遺産として、茶臼山古墳や、山ノ根古墳、久米田古墳群や、古墳を飾る埴輪を焼いていた跡である和名埴輪窯跡群もあり、古代のロマンへと私たちを誘ってくれます。

Yoshimi Hyakuana is an archaeological remains created in the sixth century where numerous burial pits were dug on the side of a small hill. Investigation was first conducted in 1887 and 237 horizontal holes were excavated. At the time, it was thought to be the dwelling site of the indigenous people, but was later discovered to be the remains of ancient tunnel tombs. This Yoshimi Hyakuana is also known as the natural growing place of hikarigoke (luminous moss) which is designated as Japans specially protected species. There also is the Kuroiwa Ouketsubogun (Kuroiwa Tunnel Tombs) which easily overtakes the size of Yoshimi Hyakuana as well as many burial mounds of ancient local ruling families have been found in Yoshimi Town.

現代人の想像を超えた、太古の人の営みの跡。



ヒカリゴケ



黒岩横穴墓群



岩室観音

中世・近世

古墳時代、吉見の地に古墳を造営した地方豪族たちは、時代を経て武装した集団をつくり出した。そうして生まれた武士は、鎌倉時代には御家人として幕府に仕え、戦国時代には群雄割拠の世の主役となりました。比企丘陵でも、上杉、武田、北条の各勢力が激突。吉見の松山城を巡って攻防を繰り返しました。



安楽寺・本堂

三重塔



城跡や石仏に、武蔵のものものふたちを偲ぶ。

市野川が形成した広大な低湿地帯に囲まれた丘陵の先端に築かれた松山城は、北武蔵地方屈指の平山城です。応永年間(1394~1428年)と推定される築城以来、この城は、武將たちが覇権を競い合う舞台となりました。最も有名なのは、16世紀半ばの天文年間から永禄年間にかけて、松山城を巡って上杉、武田、北条の各氏が展開した攻防戦です。松山城の建物は失われてしまいましたが、当時の城の様子を城跡からうかがい知ることができます。

松山城跡の北側にあるのが、岩室観音。堂宇の横の洞窟には、88体の石仏が納められ、これらを拜めば、四国88カ所にお参りしたのと同じご利益があるとされています。

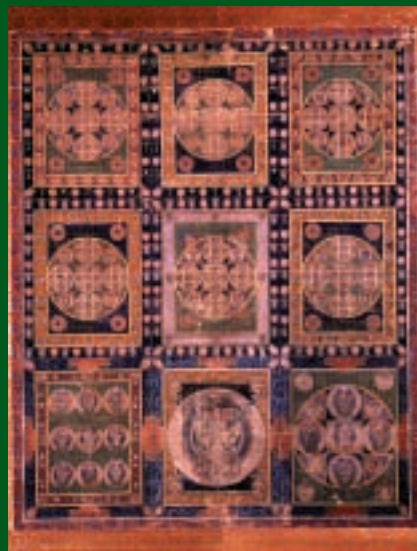
町の中央部にある息障院は、源頼朝の弟・範頼の居館跡と伝えられます。ここには、町内最古の建造物である地藏堂や、ヒノキによる寄せ木造りの不動明王坐像(県指定文化財)をはじめ、貴重な文化財が数多く伝えられています。

町南部の金蔵院には、14世紀後半の宝篋印塔が二基あり(ともに県指定文化財)、一基は、『平家物語』に登場する武將・大串次郎重親の墓と伝えられています。墓の下からは、平成11(1999)年、人骨の入った中国産の白磁四耳壺(13世紀初頭)と渥美半島産の大甕(12世紀後半)が出土。白磁四耳壺は、わが国での出土例が極めて少なく、大変貴重な資料となっています。

Matsuyama Castle is situated in the hilly area of Yoshimi Town and is thought to have been constructed towards the end of the 14th century to the beginning of the 15th century. In the mid-16th century, a war erupted as prominent feudal warlords fought over this castle. Although the castle itself has been long gone, people can learn about the past from its remains. Moreover, close by to the ruins of the Matsuyama Castle is the Iwamuro Kannon where 88 stone images of Buddha is situated. There are, in many parts of Yoshimi Town numerous historic sites that eloquently tell the history and culture of Yoshimi Town in the medieval times, such as the precious and valuable architectures, temples with wooden images of Buddha and temples where a rare porcelain vase made in China in the 13th century was discovered.



岩室観音・石仏



絹本着色両界曼荼羅



金蔵院宝篋印塔



白磁四耳壺



松山城跡



息障院不動明王坐像

【第三章】

吉見

町物語

昭和29(1954)年の4ヶ村合併から半世紀。その間、純農村だった吉見は、大規模な工場や住宅地を抱える近代的なまちに発展しました。50年の間に、私たちのまちでどんな出来事があったのか。それを振り返ることは、次の時代の一步を踏み出すためにも必要なこと。ここでは、各時代の出来事にゆかりのある人たちの証言も交えて、10年単位で吉見の歩みをたどっていきます。

Half a century has passed since the merger of the four villages in 1954, during which time Yoshimi Town has emerged into a modern town with large-scale plants and residential areas while it started out as nothing more than a simple agricultural village. Now, we shall reflect back on the history of Yoshimi Town and review its steps by each decade for the past 50 years.

第2章 吉見歴史紀行

近代化の中で、激動の歴史を刻んだまち。

江戸時代、現在の吉見町が属していた横見郡は、おおむね四十三ヶ村に分かれていました。明治維新となり新たな時代が幕を開けると、この地域もゆっくりと近代化への道を歩み始めました。しかし、その一方で、水害との厳しい闘いを強いられたり、大きな戦争に暮らしが脅かされたりと、激動の時代が続きました。

明治22(1889)年に町村制が施行され、横見郡に、北吉見・東吉見・南吉見・西吉見の四カ村が誕生しました。同29(1896)年になると、横見郡が廃止され、比企郡へと編入されましたが、四カ村には、横見郡の区域がほぼそのままの形で入ることになりました。なお、旧郡域がそっくり一つの市町村になっているのは、埼玉県では吉見町だけで、それだけに昔からの地域の文化や歴史がよく残されています。その後、四カ村は、昭和29(1954)年に合併するまで、60年以上もの間、その姿を存続させたのでした。

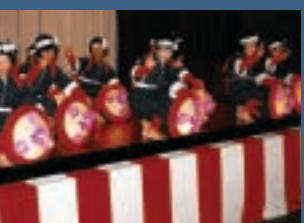
この地域は、昔から県内有数の穀倉地帯として知られてきましたが、肥沃な土地は、太古から繰り返された川の氾濫によって生まれたものでした。特に荒川のつけかえによる水害は、明治以降もたびたび起こり、甚大な被害をもたらしました。そのため、河川の改修事業が何度も行われました。

明治から大正、昭和の初めにかけて、吉見の地は一貫して農村のおもむきを保ってきました。それでも、電灯がついたり商店が増えたりと、徐々に近代的なまちの様相を見せていきました。人びとの生活が次第に向上していく一方で、日清戦争、日露戦争、日中戦争などの戦争が続き、やがて太平洋戦争へと突入していきました。

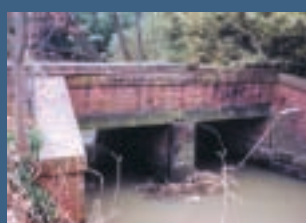
近代・現代



下細谷ささら獅子舞



大和田の郷土芸能



永腐門樋

In 1889, there emerged the four villages of North, East, South and West Yoshimi Villages. They were in existence for more than 60 years until they were merged to form the Yoshimi Village in 1954. This region has long been known as one of the best fertile grain belts in Saitama Prefecture, but had suffered immense damages from its river flooding on several occasions. As such, projects to refurbish the river bank area have been executed a number of times.

From the Meiji period to Taisho period and even into the early Showa period, Yoshimi Town gradually developed to obtain a more modern townscape while in general maintaining an atmosphere of an agricultural village.



第二章「吉見歴史紀行」の取材にご協力いただいた方

大澤重夫さん(北吉見在住) 元教員。平成11年より町の文化財審議会委員を務める。吉見百穴とヒカリコケについて詳しい。

島本杏海さん(久保田在住) 元教員。無量寺住職。平成元年より町の文化財審議会委員を務める。特に、町内の文化財では板碑の研究を行う。

松本和之さん(松崎在住) 元教員。平成7年より町の中央公民館長。また、平成15年より町の文化財審議会委員を務める。郷土史全般に通じる。

YOSHIMI Historical Trip

吉見町物語

YOSHIMI Town Stories

昭和29(1954)年、4つの村が合併して、吉見村が誕生。この地域は、新たな結束のもとに力強く歩みを始めました。また、いちご栽培もスタート。栽培技術の改良などを経て、徐々に吉見を代表する農産物として成長していきまし。日本が高度成長期を迎える前——吉見も、まだまだ農村のおもむきを強く持っていました。

1954～63

昭和29年～38年

四ヶ村が合併し、「吉見村」が誕生。 新たな農業も始まる。

昭和28(1953)年、地方自治体の財政能力強化、行政効率の向上などを目的とした町村合併促進法(昭和の大合併)が公布されました。これを受けて、東吉見、西吉見、南吉見、北吉見の四ヶ村では、合併を検討し、これに合意。昭和29(1954)年7月1日、四つの村が統合されて、新たに「吉見村」がスタートしました。昭和30(1955)年には、下細谷の



新村役場庁舎完成



統合中学校開校



東第一小学校で完全給食開始

現在地に役場庁舎が完成。新たな拠点での行政運営も始まりました。吉見の農業は、当初は稲作中心でしたが、昭和30年代に入ると、吉見でいちごが初めて栽培されました。この地は、いちごの生育に適していたため、その後、多くの農家に普及。昭和35(1960)年にトンネル栽培も始まるなど、栽培技術も改良されて、生産性も向上していきました。現在では「とちおとめ」が栽培品種の主流ですが、当初は「埼玉ダナー」が中心でした。



西地区宅地造成始まる



農業の様子



1954～1963(昭和29年～38年)

- 1954(昭和29) 東・西・南・北吉見村が合併し、吉見村に村章制定
第1回村民体育祭開催
ピキニ環礁水爆実験で第5福竜丸被災
池袋-御茶ノ水間地下鉄開通
- 1955(昭和30) 下細谷411番地に役場庁舎完成
旧村役場支所廃止
吉見領土地改良区設立
南極探検隊第1陣出発
神武景気始まる
- 1956(昭和31) 放射線道路工事着工
庁用自動車購入
日本登山隊マナスル初登頂
三種の神器(電気掃除機・電気洗濯機・電気冷蔵庫)
- 1957(昭和32) 統合中学校を下細谷に建築
農業委員会発足
南極に昭和基地建設
100円硬貨・5000円札発行
- 1958(昭和33) 消防用火の見槽を4基建設
診療所を下細谷地内に開設
統合中学校開校
「広報よしみ」発行
関門国道トンネル開通
1万円札発行
東京タワー完工式
- 1959(昭和34) 東第一小学校で完全給食実施
東第二小学校移転及び校舎完成
台山排水機場完成
皇太子(現天皇)、正田美智子さんご成婚
メートル法施行
- 1960(昭和35) 西小学校校舎完成
消防自動車購入
納税貯蓄組合設立
新日米安保条約調印
カラーテレビ放送開始
- 1961(昭和36) 中学校に屋内運動場完成
母子センター開設
吉見百穴が村管理に
- 1962(昭和37) 老人クラブ開設
農業機械大型化進む
東京都世界初の1千万都市に
- 1963(昭和38) 和名集会所完成
西地区で宅地造成始まる
水稻の空中散布防除開始
吉展ちゃん誘拐事件

On July 1, 1954 the four villages of North, East, South and West Yoshimi Villages merged, marking the start of the Yoshimi Village. In 1955, a village office was completed where the current government office stands today. The agriculture in Yoshimi Village concentrated on rice cultivation, but its people started growing strawberries in the mid-1950s. The cultivation technique advanced in 1960 and its crop yield increased. Residential development on the hilly area was begun in 1963, lending to the formation of a new townscape.

昭和29年の四ヶ村合併のことはよく覚えていません。もともと南吉見村の役場で職員をしていました。それが、吉見村として一つになるということになって、新しい役場へ移りました。合併後初めての議会を場所がないからといって、観音様の庫裏で開いたりもしました。今では考えられないことですね(笑)。



時代に ZOOM iN! 1
1954年
スムーズだった四ヶ村合併
元吉見町職員、元収入役
吉澤一男さん

吉見町物語

YOSHIMI Town Stories

日本経済の高度成長が始まると、それまで純粋な農業地帯だった吉見村にも近代的なまちの環境が形成されていきました。交通や教育をはじめ各種の機能が充実し、さらに、大きな工場の進出も始まり、まちを支える産業の新たな柱が育っていきました。そうしたなかで、昭和47(1972)年、町制を施行。新たなまちの歴史をスタートさせました。

1964~73

昭和39年~48年

近代的なまちの表情も表れるなか、吉見村から「吉見町」へ。



いちご栽培大型化



町史編纂事業



村初の信号機設置



上水道事業着手・給水開始



昭和39(1964)年、四ヶ村の合併十周年を迎えるころから、吉見も徐々に都市化・近代化を見せるようになりました。昭和40(1965)年には御成橋と徒歩橋が開通、昭和42(1967)年には東松山・中曽根間をバスが走るようになりました。そのほかにも、農集電話の開通、上水道事業の着手、給食センターや農業構造改善センターの建設など、都市として必要な基盤が次々と整備されていきました。



交通公園完成



大型工場建設



広域農道



町制施行・式典



東松山-中曽根間バス開通



1964~1973 (昭和39年~48年)

- 1964(昭和39) 町史編纂事業開始
いちご大型トンネル栽培開始
東京オリンピック開催
東海道新幹線開通
- 1965(昭和40) 南小学校鉄筋校舎完成
御成橋、徒歩橋開通
消防団編成替え
朝永振一郎氏ノーベル物理学賞受賞
- 1966(昭和41) 小中学校にプール完成
台風26号被害による災害救助法発動
ビートルズ来日
- 1967(昭和42) 東松山-中曽根間バス開通
北小学校鉄筋校舎完成
県道東松山・鴻巣線、町内初の舗装道路に
中央高速道路(調布-八王子)開通
3C時代(カー・クーラー・カラーテレビ)
- 1968(昭和43) 直営道路舗装開始
山ノ下保育園開園
上水道事業着手
三億円強奪事件
川端康成氏、ノーベル文学賞受賞
- 1969(昭和44) 学校給食センター建築
東名高速道路全面開通
アメリカ、アポロ11号月面着陸
- 1970(昭和45) 南小学校・北小学校に交通公園完成
人間尊重宣言
小中学校完全給食に
日本万国博覧会開催
よど号乗っ取り事件
- 1971(昭和46) 村初自動信号機、久保田内に設置
北地区ほ場整備着手
上水道給水開始
沖縄返還調印式
- 1972(昭和47) 農業構造改善センター完成
広域農道建設着手
町制施行
札幌冬季オリンピック開催
アメリカ、ウォーターゲート事件発覚
- 1973(昭和48) 中央公民館完成
東松山地区消防組合設立
比企広域市町村圏組合設立
北下砂・和名保育園開園
円為替変動相場制へ移行
江崎玲於奈氏、ノーベル物理学賞受賞

During the 1960s to the 1970s, infrastructures necessary for the formulation of a modern city was developed rapidly. Results were seen from the large-scale readjustment and reorganization of farm land and modernization policies for the agricultural village implemented during this time, and soon new forms of agricultural management that met the new needs of the time was adopted. In addition, many large plants advanced into the area, and gradually the townscape included not only farm fields but also modern architectures and others. Then on November 3, 1972, Yoshimi Village reorganized itself as a town, marking the birth of Yoshimi Town.

Yoshimi Town Stories

時代に ZOOM IN! 2 1964年 いちご栽培の技術革新進む 今西道造さん いちご生産農家

吉見でいちごの生産が始まったのが昭和三十年代で、わが家もそのころに、稲作からいちごづくりに替りました。いちご農家の組合で大型トンネルの採用が決まって、昭和35年から順次導入されていきましたが、わが家での導入は比較的遅かったですね。

東京オリンピックのあった昭和39年という、私はまだ高校生で、まだ働いてはいませんでした。しかし、すでに中学生のときから農家を継ぐ気持ちはありました。現在、吉見の農家の最大の課題は後継者の問題ですが、さいわいわが家では、子どもたちが仕事を手伝ってくれています。

昭和39年からの十年は、吉見町の環境が変わり始めていった時期だと思います。それまでは、純然たる農村という感じでしたからね。わが家は、市街地にあるためますます農作業を続けていくことに難しさを感じていますが、これからは、名産の「いちご」をさらにたくさんの人に食べてもらえるよう、努力をしていきたいと思います。

吉見町物語

YOSHIMI Town Stories

日本経済が高度成長から安定成長へと変わるころ、町内には、町や県などのさまざまな施設が整備されてきました。モノの充実から心の豊かさを大切にしようになってきたこの時代、吉見町にも、スポーツや余暇活動を支援する施設、福祉施設などが完成。生活にうるおいや生きがいをつくりだす場が町内に充実するようになりました。

1974～83

昭和49年～58年

福祉施設をはじめ、さまざまな施設が完成。充実のまちづくりが進む。



合併20周年記念行事



吉見海洋センター完成



吉見町史上下巻刊行

昭和49(1974)年、合併二十周年を迎えるころからは、さまざまな行政施設や生活施設などが続々誕生し、いよいよ充実のまちづくりが行われるようになりました。

昭和50(1975)年には、関東精器工場の誘致が実現し、産業面で一層の活性化が進みました。また、県立吉見高等学校や埼玉県吉見勤労青

少年フレンドシップセンター、県営吉見総合運動公園、吉見海洋センターなどが完成し、教育やスポーツの環境も整っていききました。

さらに、町内で初の地区公民館が完成したほか、老人福祉センター「荒川荘」や勤労福祉センターなど、町民の余暇活動や福祉面を支える拠点が生まれることで、生活の利便性だけでなく、さまざまな立場の人にやさしく、うるおいを備えたまちへと発展していきました。

昭和57(1982)年には、町制施行十周年を迎え、第二次吉見町総合振興計画を策定。時代に合った、よりよいまちづくりの指針に沿って、吉見町は力強く歩みを進めました。



武道館完成



スポーツ盛んに



町民ゴルフ大会



1974～1983(昭和49年～58年)

- 1974(昭和49) 北小学校屋内運動場完成
東松山地区消防組合吉見出張所完成
合併20周年・上水道事業竣工記念式典
佐藤栄作元首相、ノーベル平和賞受賞
- 1975(昭和50) 中学校鉄筋校舎完成
山陽新幹線、岡山-博多間開通
沖縄海洋博覧会開催
- 1976(昭和51) 前河内保育園開園
南小学校屋内運動場完成
県立吉見高等学校開校
吉見勤労青少年フレンドシップセンターオープン
ロッキード疑惑で田中角栄元首相、逮捕
天皇在位50年式典
- 1977(昭和52) 東第二小学校屋内運動場完成
県営荒川サイクリング道路開設
横見川改修工事着工
有珠山噴火
- 1978(昭和53) 八丁湖遊歩道完成
大和田浄水場通水式
新東京国際空港開港
- 1979(昭和54) 西小学校鉄筋校舎完成
東公民館完成
武道館完成
米・中国交回復
第一回東京国際女子マラソン開催
- 1980(昭和55) 八丁湖公園整備着手、用地取得
南小・北小校舎増築完成
東部都市下水道整備着手
西公民館完成
モスクワオリンピック開催(日本不参加)
- 1981(昭和56) 北公民館完成
吉見海洋センター(体育館)開所
福井謙一氏ノーベル化学賞受賞
- 1982(昭和57) ごみ処理場施設建設着手
農村センター(南公民館)完成
吉見海洋センター(プール)オープン
老人福祉センター(荒川荘)完成
荒井橋開通
県営吉見総合運動公園オープン
ホテルニュージャパン火災
日航機、逆噴射で墜落事故
- 1983(昭和58) 勤労福祉センター完成
東第二小学校校舎完成
役場庁舎改築工事着手
第一回町民ゴルフ大会開催
埼玉中部環境センター試運転開始
中国自動車道全面開通
東京ディズニーランド開園

Around 1974, when Yoshimi Town was celebrating its 20th anniversary since the merger, various administrative facilities and those concerning daily living was constructed, and the measures for town planning were enhanced. In 1975, Yoshimi Town invited large-scale plants and the town's industry was further vitalized. The fundamental facilities for education and sports were also developed around this time. Yoshimi Town evolved into a town friendly to people of all status and background, enriching their lives with the creation of a new base that provided a space for leisure activities and supported services related to welfare.

Town Stories

吉見町物語

YOSHIMI Town Stories

1984～93

昭和59年～平成5年

大規模な工業団地や住宅団地が生まれ、まちの近代化が一層進展。

時代が昭和から平成へと変わる中で、まちの環境も変貌を遂げていきました。役場新庁舎や図書館といった主要な施設が誕生するほか、工業団地や住宅団地の建設なども進み、まちの近代化が加速。そのため、町制施行時には約1万4500人だった人口も、平成3(1991)年には2万人を突破しました。

昭和59(1984)年には、四ヶ村の合併三十年という節目を迎えました。このこれを記念して、町民憲章、町の花「菊」・町の木「けやき」・町の鳥「ひばり」・吉見音頭(29ページ)を制定。まちの新たなテーマやシンボルが生まれたことで、吉見町の個性がさらに明確にアピールされるようになりました。

昭和から平成へと時代が移り変わる中で、役場新庁舎や町立図書館、保健センター、町民体育館といった、まちの主要施設も次々に完成。さらに、平成3(1991)年には、人口が2万人を突破するなど、成熟したまちにふさわしいプロフィールを備えるようになりました。

また、長谷工業団地の造成が始まるなど、農業のまちから、工業も産業の重要な位置を占める都市型のまちへと、変化を続けていきました。一方、丘陵部住宅団地での住宅建設が急速に進み、東部市街化区域の土地画整理事業にも着手し、まちの近代化がさらに進められました。



町立図書館完成



町役場新庁舎完成



吉見郷土かるた完成



町民体育館完成

時代に ZOOM IN! 4

1985年 町の支援に支えられた図書館

石川俊良さん 町立図書館の初代館長

もともと川越の県立図書館に勤務していましたが、吉見町に町立図書館がオープンするということで、館長として出向してきました。役場の職員の方が本に對する理解があったので、仕事はやりやすかったですね。特に、当時の町長さんが図書館事業を熱心に応援してくださって、ずいぶん助かりました。

町立図書館では、本の貸し出しにあたって冊数の制限を設けず、また、館内をカーペット敷きにして靴を脱いで入館してもらおうなど、それまでの図書館ではあまり考えられなかったことをしました。また、近隣市町との広域利用も最初から導入するなど、利用される方がたの利便性を第一に考えてサービスを充実させました。

子どもたちの活字離れが問題になっている昨今ですが、図書館で、のんびり時間を過ごす楽しさを、今の子どもたちにもっと知ってほしいですね。そうした時間が大人になって、大きな価値を持つてくるのですから。

- 1984~1993(昭和59年~平成5年)
- 1984(昭和59) 吉見中学校新校舎完成
合併30周年記念
役場新庁舎完成
町民憲章、町の花・木・鳥、吉見音頭制定
ロス疑惑報道
ロサンゼルスオリンピック開催
 - 1985(昭和60) 町立図書館オープン
日航ジャンボ機墜落事故
つくば科学博覧会開催
 - 1986(昭和61) 「吉見八景」選定
第1回吉見音頭コンクール開催
保健センターオープン
公共下水道事業工事着工
スペースシャトル爆発事故
三原山200年ぶりに大噴火
 - 1987(昭和62) 消防防災無線スタート
合併処理浄化槽設置整備事業着手
社会福祉協議会が社会福祉法人としてスタート
糠田橋開通
国鉄民営化、新生JRスタート
利根川教授、ノーベル医学・生理学賞受賞
 - 1988(昭和63) 移動図書館「ブックシャトルひばり」巡回開始
さいたま博覧会で吉見町郷土芸能フェスティバル開催
ソウルオリンピック開催
 - 1989(平成1) 高齢者事業団設立
町民体育館完成
長谷工業団地内で工場建設開始
昭和天皇崩御
ベルリンの壁、崩壊
 - 1990(平成2) 第三次吉見町総合振興計画策定
東西ドイツ統一
天皇陛下、即位の礼
 - 1991(平成3) 農業集落排水事業(荒子・観音地区)供用開始
大前排水機場完成
武蔵丘短期大学開校
東部土地区画整理事業着工
湾岸戦争勃発
雲仙普賢岳、大規模な火砕流
 - 1992(平成4) 町制施行20周年記念
町民海外派遣事業実施
「吉見郷土かるた」完成
バルセロナオリンピック開催
PKO協力法案成立
 - 1993(平成5) 吉見中学校でコンピュータ授業開始
Jリーグ開幕
皇太子さま、小和田雅子さん結婚の儀

When Yoshimi Town welcomed its 30th anniversary since its merger in 1984, to commemorate the memorable occasion, the town charter, flower (chrysanthemum), tree (zelkova tree) and bird (lark) was established. Around this time the main facilities of the town was completed one after the other, including the new town office, town library, health center and gymnasium. In 1990, the population surpassed 20,000. Furthermore, it transformed from an agricultural town to one where manufacturing dominate a fair share of its industry, including the construction of an industrial complex. The redevelopment of the urban area has also been implemented.

Stories

吉見町物語

20世紀から21世紀へと、吉見町は独自の発展を遂げました。都市的な性格を強める一方で、福祉や環境面での施策が充実。また、丘陵や田園風景など、吉見らしい自然の景観を守っていくことの大切さもクロスアップされていきました。現在、明確なビジョンのもとに、よりよい未来に向けて積極的なまちづくりが行われています。

1994~2005 平成6年~17年

二十一世紀、さらに魅力的な吉見へと、独自のまちづくりを展開中。

社会環境の変化、人びとの考え方の変化に応じて、吉見町のまちづくりにおいても、福祉や環境面での強化が図られました。平成6(1994)年には、吉見町老人保健福祉計画を策定。高齢者がより安心して健やかに暮らせる環境づくりが推進されました。また、ペットボトルの資源回

収や公共下水道の供用が開始したのも、この十年間の出来事です。

平成10(1998)年には、農産物加工処理センターがオープン。まちの特産品の生産・流通に大きな弾みがつきました。平成12(2000)年には、新たに吉見排水機場の整備も始まり、横見排水機場の整備と合わせ、より水害に強いまちづくりを進めています。

21世紀を迎えた吉見町では、平成13(2001)年、第四次吉見町総合振興計画を策定。将来像「みんなで創る、みどりと笑顔があふれるまち」の実現に向けて、「便利でにぎやかなまちの拠点づくり」「農業の活性化と担い手づくり」「子育て支援のまちづくり」「地域ぐるみの教育環境づくり」の4つのリーディングプランにより、町政運営を計画的に進め、町民と行政が一体となって独自のまちづくりが進められています。

In 1994, the Yoshimi Welfare Plan for the Elderly was enacted. Creation of an environment in which the elderly can live in comfort and soundly has been promoted. In 1998, the Agricultural Product Processing Center was opened and the production and distribution of Yoshimi Town's specialty products were bolstered. Yoshimi Town has become a water disaster-resilient town as it completed two drainage pumping stations in 1999. We are carefully but steadily advancing measures for town planning based on precise planning in order to realize the future of the town as a "town rich in greenery and smiles created by the townspeople" as we have entered the 21st century.



ふれあい広場全景



西が丘小学校開校



新給食センター完成



四阿と池



ジョギングコース



中央広場



陸上競技場

時代に ZOOM IN! 5



1998年 おいしいみそを、吉見の名物に

みそ加工グループ 吉見町

平成10年の農産物加工処理センターの誕生にもない、町では、農産物の加工を行う女性起業家育成の支援を行いました。その結果、誕生したのが、町内在住の主婦七名によって運営される「吉見町みそ加工グループ」(高沢和江代表)です。平成11年に製造許可を取得。農産物加工処理センターを拠点に、みその生産を行っています。「メンバーはいずれも、家が専業農家ですから、農家の仕事忙しいときは、みそづくりは夜の作業になってしまいます。でも、気の合う仲間同士ですから楽しいですね」メンバーの一人はそう語ります。つくられるみそは、町内の農産物直売所で売られています。近年は人気も上々。おいしいみそづくりのコツは、材料選びと麹による発酵にあるとか。同グループでは、メンバーの家で栽培した地元産米と大豆を使い、じっくり発酵を行っています。「道の駅もできますし、みそを使った新しい商品を開発するなど、付加価値を高めることで、多くの人に吉見町のみそを知ってもらいたいですね」

1994~2005 (平成6年~17年)

- 1994(平成6) ビデオ「吉見歳時記」制作
総合防災訓練実施
関西国際空港開港
大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞
- 1995(平成7) 農業集落排水事業(田甲・上砂地区)供用開始
西が丘小学校開校
阪神・淡路大震災
地下鉄サリン事件
- 1996(平成8) 東第一小学校・東第二小学校プール完成
ふれあい広場オープン
久米田配水場完成
中学生海外派遣事業実施
大阪府で病原性大腸菌「O-157」検出
- 1997(平成9) 南小学校・西小学校・北小学校・吉見中学校プ
ール完成
西吉見南部地区(久米田)ほ場整備完成
ペットボトル資源回収スタート
山一証券倒産
- 1998(平成10) 横見排水機場整備着手
農産物加工処理センターオープン
荒川右岸流域下水道供用開始
長野冬季オリンピック開催
ワールドカップフランス大会、日本悲願の出場
- 1999(平成11) 東第一小学校校舎耐震補強工事竣功
(仮称) 県営西部浄水場用地買収開始
東海村・民間核燃料施設で臨界事故
世紀末、「ノストラダムスの大予言」流行
- 2000(平成12) 学校給食センター完成
平和都市宣言
吉見排水機場整備着手
介護保険制度スタート
沖縄サミット開催
シドニーオリンピック開催
- 2001(平成13) 第四次吉見町総合振興計画策定
東野ふれあいセンターオープン
アメリカ同時多発テロ
国内初狂牛病感染牛発見
- 2002(平成14) 都市計画マスタープラン策定
女性行動計画策定
ビデオ「ふるさと吉見町制施行30周年を迎えて」
制作
町内巡回バス運行開始(2ルート運行)
日韓ワールドカップ開催、日本ベスト16に
ソルトレイクシティ冬季オリンピック開催
- 2003(平成15) 東公民館改築(移転)
介護予防施設「悠友館」オープン
米英軍によるイラク空爆開始、戦火激化へ
「千と千尋の神隠し」アカデミー賞受賞
- 2004(平成16) 百穴資料展示館オープン
彩の国まごころ国体
ロードレース・グラウンドゴルフ会場
東第一小学校体育館完成
アテネオリンピック開催
新潟県中越地震発生
スマトラ沖地震による大津波発生
- 2005(平成17) 町民会館オープン
道の駅「いちごの里よしみ」オープン
福祉会館オープン
埋蔵文化財センターオープン
西部ふれあいセンターオープン



吉見まつり・吉見音頭(踊り)発表会



彩の国まごころ国体・ロードレース



彩の国まごころ国体・グラウンドゴルフ

町民体育祭



1994~2005

平成6年~17年



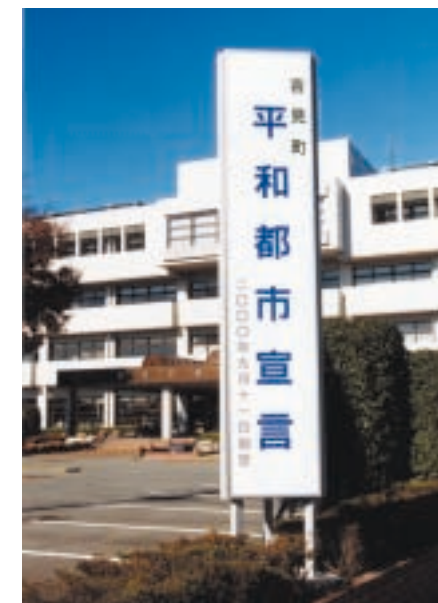
コスモスまつり



町内巡回バス運行開始



防災訓練



平和都市宣言



東松山消防署吉見分署オープン



悠友館完成

農産物加工処理センター



【第三章】
吉見町物語

YOSHIMI Town Stories

吉見町 ガイドマップ



22 埋蔵文化財センター



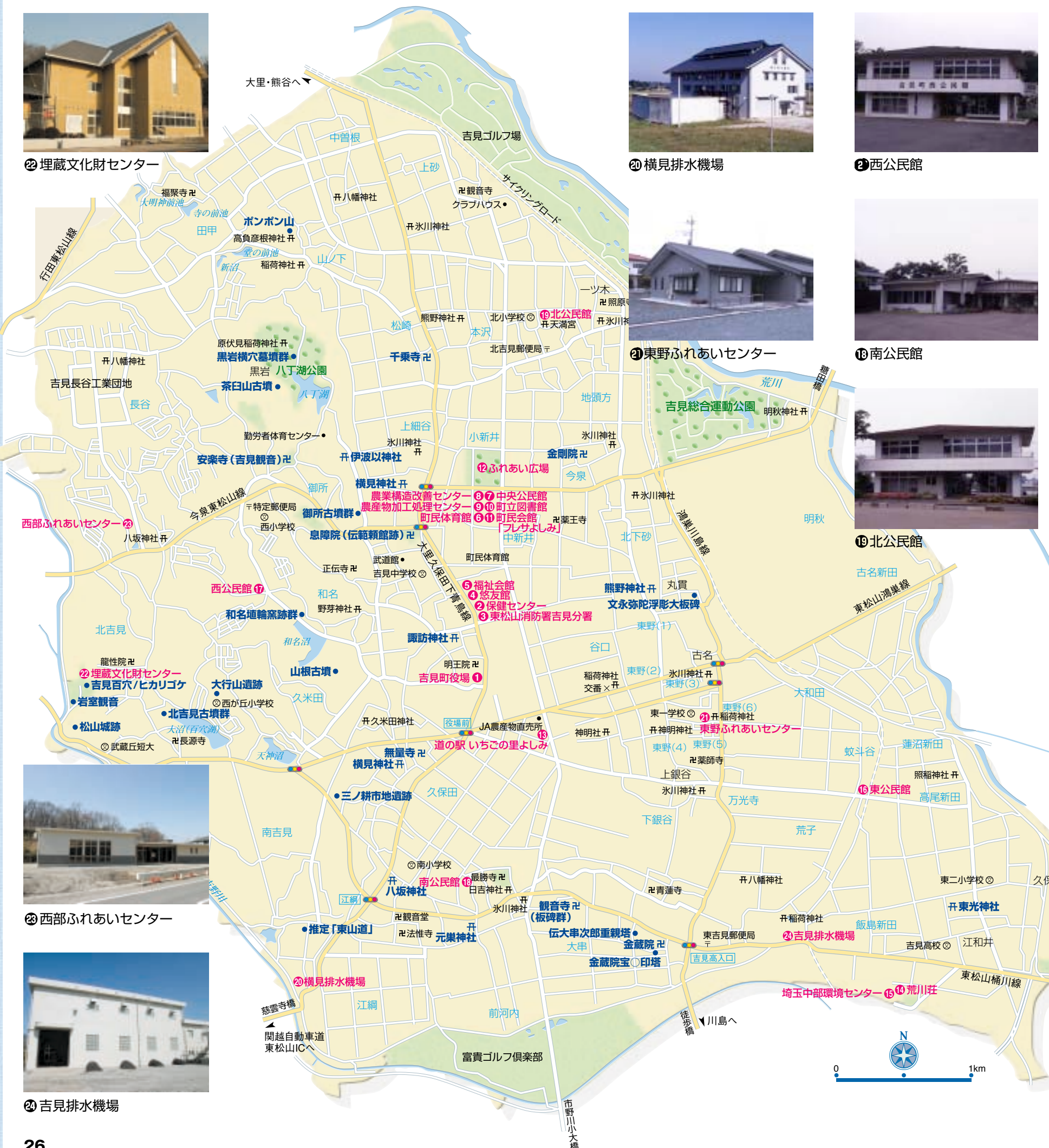
20 横見排水機場



2 西公民館



11 町民会館 (フレサよしみ)



23 西部ふれあいセンター



24 吉見排水機場



21 東野ふれあいセンター



10 南公民館



12 道の駅 いちごの里よしみ



6 町民体育館



1 吉見町役場



13 ふれあい広場



7 中央公民館



2 保健センター



11 老人福祉センター「荒川荘」



8 農業構造改善センター



3 東松山消防署吉見分署



15 埼玉中部環境センター



9 農産物加工処理センター



4 悠友館



16 東公民館



10 町立図書館



5 福祉会館

歴代村・町長



初代村長
小高圭作氏
(昭和29年8月8日～昭和33年8月7日)



2代目村長
中村尊輝氏
(昭和33年8月8日～昭和41年8月7日)



3代目村長/初代町長
秋庭利氏
(昭和41年8月8日～昭和49年8月7日)



2代目町長
岡安佳男氏
(昭和49年8月8日～昭和52年4月10日)



3代目町長
木村嘉正氏
(昭和52年5月8日～平成元年5月7日)

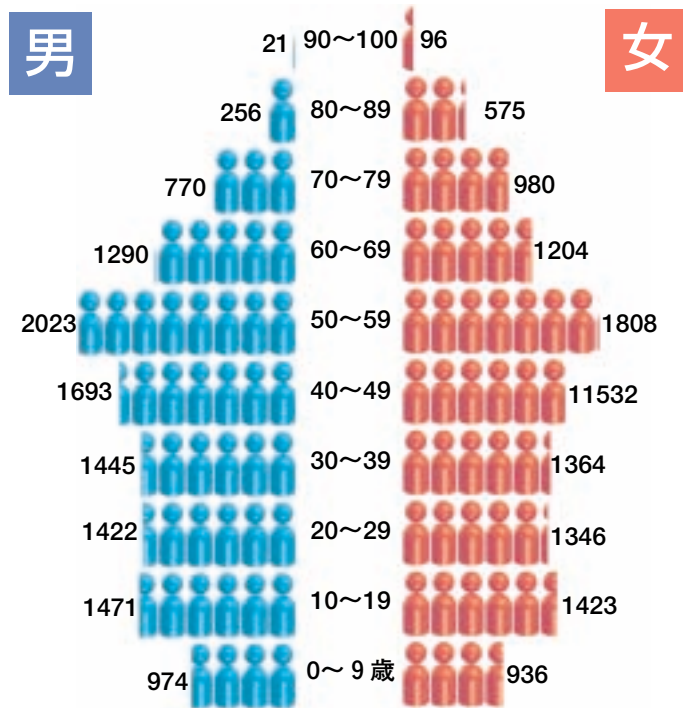


4代目町長
新井敬三氏
(平成元年5月8日～現在)

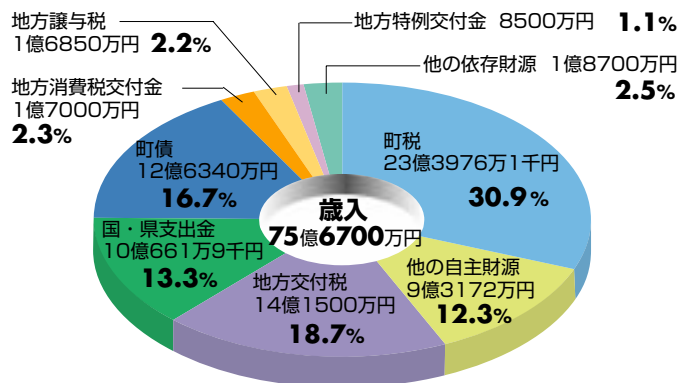


■年齢別(10歳階級)、男女別人口構成

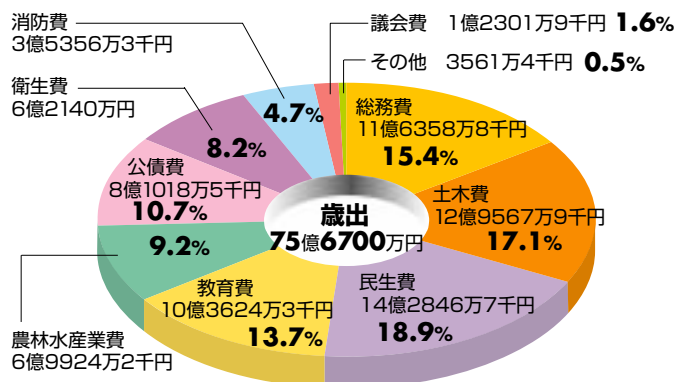
■総人口 22,629人
■男性 11,365人
■女性 11,264人
(平成17年1月1日現在)



■歳入予算(平成16年度一般会計)



■歳出予算(平成16年度一般会計)



町の花◆菊



町の木◆けやき



町の鳥◆ひばり



町章
合併した四つの吉見が、首長を中心にしてガッチリ手を組み、どの方向から見ても均衡のとれた安定感をもたせ、四方に突き出た先端は東、南、西、北を意味し、どこまでも生成発展する吉見町のたくましさを象徴する。



吉見音頭